

海を活かしたまちづくり

相模湾から小田原や箱根を眺めた経験のある方はどのくらいいらっしゃるでしょう？

私の何年かぶりの機会は、昨年 10 月の小田原マリンデーの関連イベントとして行った、江の島から早川漁港へのクルージングでした。

一昨年の大涌谷の苦い経験を踏まえて、小田原、箱根の観光の課題を提言という形でまとめた「小田原箱根の観光ビジョン」を 2016 年 5 月に発表しました。そして、そこから発展した小田原の観光について、2017 年 11 月に発表した提言「平成の城下町・宿場町構想」は今、行政にも加わってもらい、研究会を立ち上げ、5 つの分科会での熱心な議論が進んでいます。昨年のイベントはこの分科会のひとつ、「海のなりわい分科会」による企画・開催でした。

改めて海からわがまちを観て体感的に感じたことは、私たちは山と海に囲まれたところにへばりつくようにして暮らしているなということ。そして、この至近に丹沢と箱根の森があるから豊かな相模湾があり、そのおかげでいろいろな自然の恵みをいただいていること。そして、もうひとつはその景観のすばらしさと、陸にいて感じるのとは全く違う姿を見せる小田原のまちです。これはぜひ皆さんに、特に子供たちに見せたいと思いました。自分のふるさとがどういう素敵どころなのかを。

そして、海から小田原のまちにアプローチする時のワクワクする気持ち。きっとこれは外から訪れる人、つまり、観光のお客さんも魅力として感じてくれるに違いないと。

そんな話を親しい近隣の商工会議所の会頭さんと話していたら盛り上がり、このたび、横須賀から湯河原までの相模湾に面する 7 つの商工会議所と 7 つの商工会が一緒になり「相模湾からの経済活性化会議（会長：鈴木悌介）」という団体を立ち上げ、一緒に活動を始めることになりました。県では、黒岩知事の肝いりの「かながわシープロジェクト」の一環として、行政主体で既に昨年 6 月に立ち上げていた「かながわ海洋ツーリズム推進協議会」に参画することも決まりました。まずは相模湾という海を知る勉強会から始めます。規制・法律の制約や既存の産業との共存など様々な課題がありますが、鉄道や道路の陸路は恵まれているこの小田原・箱根に第三のルート、つまり海のルートができないかとか、世界の富裕層の究極の道楽は自分で高級クルーザーを持つことだそうですので、将来、小田原沖にそんな船が集まってきたらとか、相模湾というかけがえのない資産を活かし、漁業と共存し、自然を守り、持続可能な経済活性化策につながればと、ワクワクしながら夢想しています。

会頭 鈴木悌介